

将来教員になる学生に早い段階から国際的な素養を高めてもらうために、教育学部ではタイのチェンマイ大学、アメリカのコロラド州立大学、チェコの南ボヘミア大学、台湾の嘉義大学に学生を派遣するプログラムを実施しています。私は教育学部の国際交流委員として、2002年にアメリカのコロラド州立大学と学術国際交流協定を結び仕事に携わりました。学生の交流が始まったのは2008年からです。これまでに85人のアメリカ人学生を受け入れ、本学の学生約50人を送り出しています。コロラド州立大学からの留学生は、日本語と日本文化を学びます。香川大学生はコロラド州立大学で開講されている日本語の授業のティーチングアシスタント活動をしたり、アメリカのプレスクールや小中高等学校を見学し、教育制度などを学んでいます。多くの学生に参加してもらいたいと考えていますが、教育学部の学生は授業数が多く、2年から実習が入る関係で、長期留学するには、大学の仕組みを変える必要があるのかもしれない。

私が国際交流委員に着任した当時の教育学部長が「五大大陸の大学と国際交流協定を結ぼう」という目標を掲げていました。今では、中国、韓国、タイ、ブルネイ、スペイン、チェコなど数多くの大学と協定を締結しています。最近では台湾の嘉義大学で行われ

た国際会議に、教員6人と学生7人で参加しました。アフリカについては、南アフリカで勤務している卒業生もいますので、機会があれば協定を結びたいですね。

近年、香川に訪れる外国人観光客も増えています。小学校でも外国人の子どもを受け入れており、地域の国際化が進んでいます。本学でも外国人研究者や香川県の企業誘致を検討している海外行政担当者とともに県内企業を訪問し、香川や瀬戸内地域の魅力を再発見し、地域に根ざした広い視野を持つ教員・社会人を育てるプログラムを立ち上げました。

学生たちには日頃から「限界を作らず、チャレンジしてほしい」と伝えています。自分の知っている世界が全てではありません。いろいろな交流や体験を通して、世界が広がると思います。あとはポジティブに頑張ってもらいたいですね。これからは、地球規模で物事を考え、地域目線で行動できる「グローバル」な人材が求められています。現在附属坂出中学校の校長も兼任していますが、二つの附属中学校でも、高松は国際交流、坂出は地域連携の授業を取り入れています。本学には、「海外で勉強したい」「地域に貢献したい」という学生を支援するプログラムがたくさんあります。



グローバル・カフェ



高木 由美子 Takagi Yumiko
香川大学教育学部教授
香川県丸亀市出身。
岡山大学大学院教育学研究科修士課程修了(1990)。博士(理学)。専門は有機化学。
2011年より現職。2015年までインターナショナルオフィス教授を併任。2016年より香川大学教育学部附属坂出中学校長を併任。

世界と地域をつなぐ グローバルな人材を育てる

小学校の英語必須化、瀬戸内地域の活性化など、教員に求められる資質は高くなっています。
限界を作らず、何事にも果敢にチャレンジしてください。

つなげる
×
つながる
interview
1